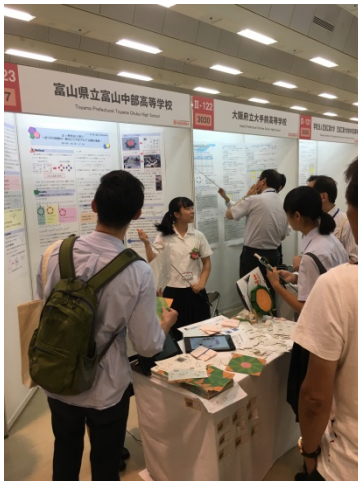


他校の発表から学ぶ

— SSH 生徒研究発表会 —

- ◇日 時 令和元年8月7日(水)～8日(木)
- ◇場 所 神戸国際展示場
- ◇参加者 館盛陽香(37H)・藤山 瞳(37H)・山口天音(36H)
- ◇指導者 笹島浩平先生
- ◇引率者 永井俊太郎先生

全国のSSH指定校・経験校218校、海外の23校から生徒が集まって、令和元年度SSH生徒研究発表会が開催された。1日目には、京都薬科大学名誉教授の桜井弘氏の「周期表誕生150年メンデレーエフの努力と天才」という基調講演があり、科学に向き合うときに重要な姿勢について学んだ。



その後、本校代表の私たち3名は1年時の基幹探究に始まる探究活動を通して培ってきた探究・発表の経験を存分に活かし、2年次の発展探究から実験・考察の面でさらに深化させてきた「正 n 角形ねじり折り」のテーマで、正 n 角形ねじり折りの折り方の総数の一般化についてポスター発表を行った。研究の過程で正8角形ねじり折りの形が、富山名物のますのすしに似ていることに気づき、作成したますのすし折り紙を用いた企業との連携についても発表した。発表には厳しい意見もあったが、研究内容や発表方法の良い点も指摘してもらえ、とても有意義な時間となった。

2日目は、全体発表校に選ばれた学校のプレゼンテーションを

聞いた。他校の発表は興味深い内容で、発表もたいへん素晴らしく、今後、探究活動の質を向上させるための参考にしたいと思った。また、研究の題材は身近なところに転がっており、おもしろい課題になりうるとわかった。大学と連携して研究を行った学校や、自分で実験器具を作った学校もあり、研究規模の大きさや独創性に驚いた。

3年生になってからは、なかなか時間がとれず、思うように研究が進まない中で、3人のメンバーで議論を重ねて研究を継続できたことは大きな自信につながった。3年間にわたる探究活動や、今回のSSH生徒研究発表会での学びを活かして、将来も数々の研究に取り組み、成果をあげていきたい。

